おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第20集

阿光坊古墳群Ⅳ

-整備に係る発掘調査報告書-

2015年3月

おいらせ町教育委員会

序

おいらせ町には、周知の埋蔵文化財包蔵地が 40 以上あり、阿光坊古墳群が造営された 7 世紀～ 9 世紀の集落が、奥入瀬川左岸に集中して確認されています。東は日ヶ久保から西は洗平まで広範囲に集落が点在し、その集落の代表が阿光坊古墳群に葬られたと推測されています。青森県では縄文期の遺跡が多く発掘されておりますが、古代史については謎につつまれています。そういう意味では、おいらせ町阿光坊古墳群の発掘調査により古代史の貴重な情報を得ることができています。

この報告書が文化財の保護保存のために多くの方に活用され、埋蔵文化財の保護に対する関心と理解をいただく資料となれば幸いです。

この度の発掘調査事業にあたり、ご協力・ご指導ご助言を賜りました関係機関の方々に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査に携わられた皆様のご苦労にも心から感謝申し上げ、刊行のご挨拶といたします。

平成 27 年 3 月

青森県おいらせ町教育委員会

教育長　　福津　康隆

例　　言

1　本報告書は平成26年度に実施した史跡阿光坊古墳群整備事業に係る文化財発掘調査報告書である。下記遺跡の調査報告を収録している。
　史跡阿光坊古墳群（十三森（2）遺跡）

2　調査は平成26年度国宝重要文化財等保存整備費補助金、地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業の補助事業で実施した。
国庫補助対象額　1,600千円　うち国庫補助金　800千円　町負担額　800千円

3　本書で使用する方位は、座標北である。緯度・経度及び平面直角座標は世界測地形（第X系）である。水糸レベルは海抜高度を示すものである。

4　挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付している。遺物写真の縮尺は統一していない。

5　土壌色については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帳』2001年版を参考とした。

6　本報告に係る出土遺物及び記録資料は、おいらせ町教育委員会社会教育・体育課埋蔵文化財調査室に保管している。

7　発掘調査及び本報告書を作成するにあたり、下記の方々、機関から多大なる御指導・御協力を得た。ご芳名を記して感謝の意を表します。（敬称略・順不同）
文化庁・青森県教育庁文化財保護課・（発掘作業員）市村悦子・種市美香・佐々木靖子・大前朋美・小笠原美智子・甲田せい子・吉田秀雄・高橋香織・下村春子・蓮沼貞子・田所道則・吉田史子・石田百合子・江刺家博子・地葉志津子（整理作業員）大前朋美

目次

序
例言
目次

1　調査に至る経過と調査要項 …… 1
2　調査経過 …… 2
3　検出遺構と出土遺物 …… 4
4　調査のまとめ …… 18

写真図版 …… 22

報告書抄録 …… 26

挿図・図版目次

第1図　史跡阿光坊古墳群位置図 …… 1
第2図　トレンチ配置図 …… 3
第3図　J10号墳 …… 5
第4図　出土遺物 …… 7
第5図　平成12年度調査図 …… 8
第6図　既往の出土遺物 …… 9
第7図　南側古墳配置図 …… 10
第8図　北側古墳配置図 …… 11
第9図　出土遺物① …… 12
第10図　出土遺物② …… 13
第11図　出土遺物③ …… 14
第12図　出土遺物④ …… 15
第13図　出土遺物⑤ …… 16
第14図　出土遺物⑥ …… 17
第15図　出土遺物⑦ …… 18
図版1　J10号墳の調査1 …… 22
図版2　J10号墳の調査2 …… 23
図版3　J10号墳の調査3・出土遺物1 …… 24
図版4　出土遺物2 …… 25

1　調査に至る経過と調査要項

調査に至る経過と事務手続きについて

本発掘調査は、史跡阿光坊古墳群整備事業の一環として行われたものである。

調査を計画した地点（阿光坊 105-58）では、J10 号墳の強調表示工事が予定されている。工事に先立ち平成 12 年度に行った発掘調査後の埋め戻し土を除去し、また、当時立木のために掘削ができなかった部分の掘削を行い、平面形態を明らかにし、後の工事の資料とすることを計画した。

事務手続きとしては、前年に史跡整備事業採択に向けての計画提出に続き、発掘調査に先立ち、文化財保護法第 125 条第 1 項の規定によって、平成 26 年 4 月 18 日付お教社第 108 号で史跡の現状変更等許可申請書を提出し、平成 26 年 5 月 16 日付 26 受庁財第 4 号の 172 で許可を受けた。のちに文化財保護法第 99 条の実施状況調査票を提出した。

調査要項

1 事業名　史跡阿光坊古墳群整備事業
2 事業者　おいらせ町
3 調査組織
　　おいらせ町教育委員会

第 1 図　史跡阿光坊古墳群位置図

教育長	福津　康隆	社会教育・体育課長	北向　勝
同課長補佐	馬場　太	同課長補佐	柏崎　和紀
総括主査	高橋　勝江	社会教育主事	成田　和久
主任主査	松林　拓大	主任主査	川村　由美子
主査	川原　和貴	主事	天間　広規
臨時職員	高原　由美子		

主任学芸員　小谷地　肇（調査担当）主任主査　木村　誠　（調査担当）

4 指導機関　文化庁　青森県教育庁文化財保護課

5 遺物の保管方法　おいらせ町教育委員会が保管する。

6 報告書の刊行　おいらせ町教育委員会が刊行する。

調査方法

J10 号墳の再発掘調査は、整備工事に対応するため、既往の調査で掘削された部分を露出し、未調査部分の掘削を作業員手掘りで行う。また、保存しているセクションベルトを、本遺構の築造時期と推定される 9 世紀末葉より確実に新しく、遺構に伴わない、915 年降下とされる To-a 火山灰以降の部分を除去することにより、工事の際に現況地盤から高くなりすぎないようにすることを目的とした。新たな出土遺物とこれまで出土している遺物との接合も期待された。また、整備に係る発掘調査最終年度となるため、既往の調査区の埋め戻しもすすめ、環境整備につとめた。

基本層序

Ⅰ層　黒褐色土。耕作土。乾くと、褐灰色に変色する。Ⅰａ層は、しまりがなくソフトである。Ⅰｂ層は、かたさはあるがしまりがなく、全体的に格子状の割れ目が目立つ。

Ⅱ層　黒色腐植質土。粘性、湿性があり、多少かたさはあるが、全体的にソフトである。細～中粒の浮石を微量に混入している。

Ⅲ層　黒褐色土。粘性、湿性に欠け、しまりなくソフトである。下位のⅣ層を多量に混入している。下位のⅢｂ層はⅣ層の混入量が多く、暗褐色浮石質土となっている。

Ⅳ層　オリーブ褐色浮石。中振浮石層である。細～中粒砂質浮石で、しまりなくソフトである。本層は侵食によりレンズ状の堆積を示している。

Ⅴ層　暗褐色浮石質土。漸移層である。粘性、湿性があり、かたくしまっている。本層中には、下位層を粒子状及びブロック状に多量に混入し、Ⅴｂ層ほどブロック状の混入量が多い。

Ⅵ層　黄褐色浮石質ローム。本層は八戸火山灰層最上部のローム層に相当する。本層には径 2 ～ 5㎜の浮石がかなり混入している。

Ⅶ層　黄褐色浮石。本層は八戸火山灰層第Ⅵ層に相当する。径 2 ～ 6㎜の浮石が密集する。本層下位には八戸火山灰層第Ⅴ～Ⅰ層相当層が堆積し、さらに高館火山灰層が堆積している。

2　調査経過

5 月 27 日より調査を開始する。環境整備の後、阿光坊でづくり古墳館にて史跡の概要説明をした後 J10 号墳の掘削を開始した。そのほかレベル移動やトラバース作業等調査準備を進めた。

5 月 29 日からは平成 24 年度に調査した 3 路線予定地の埋め戻しを開始した。以降、最終日まで埋め戻しと掘削を並行しておこなった。

6 月 10 日には、墳丘上の観測が可能になり、等高線の観測作業をすすめた。

6 月 12 日、セクション図を作成を開始した。

6 月 13 日、セクション図を完了し、写真撮影をしたあと、セクションベルトのうち遺構に伴わない部分を除去し、本年度の写真撮影を行った。また 3 路線の埋め戻しも完了し、全作業を終了した。

6 月 15 日、現地説明会を実施し、調査成果の公表をした。

第２図　トレンチ配置図

3　検出遺構と出土遺物

J10 号墳の調査（第 3･4 図　図版 1 ～ 4）

位置　阿光坊古墳群北部、第 8 図 B1 から C1 にかけて、標高 38m ほどの、南東方向へ傾斜する斜面に位置する。平成 12 年度調査後埋め戻して保存していた。なお、標高・計測値に前回調査と差があるが、障害物のない状態で計測した本調査を優先する。

周溝　周溝内径 9.30m ～ 10.05m、外径 12.00m ～ 13.35m、円形である。南南東方向に、掘り残された橋状の開口部をもつ。深さは確認面から 0.95m である。

墳丘　掘削･埋め戻しを経ているので、前回調査時の方が、より築造時に近い形態であると思われるが、立木を伐採し、全体を掘削できるようになったため、周溝を含めた 10cm 間隔の等高線作成を行った。墳丘の最下点 37.3m から頂点 38.673m まで、1.373m である。

堆積土　B セクション東側を除き、最下層は八戸火山灰層由来のブロックなどを含む人為堆積層で、埋め戻して床としたか、墳丘の崩落土ととらえられる。中位やや下層には古代の降下火山灰、To-a、B-Tm を含む。その上層は、黒色から黒褐色の自然堆積層である。

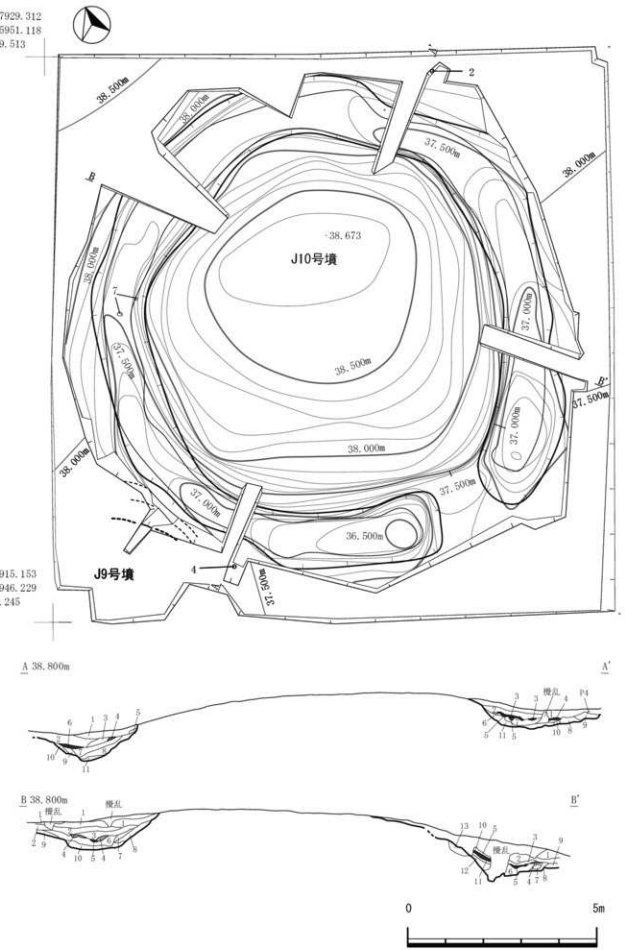
主体部　今回は再掘削はしなかったが、第 5 図に再掲したように、円形土壙の主体部をもつ。類例は未だみられないが、上層の 1･6 層は撹乱を受けている可能性はあるが、それ以外乱れはなく、床面には 2 ヶ所小ピットが確認されている。墳丘を構築した後掘削したものと考えられ、南側の 7・8 世紀代に作られた古墳は、埋葬部構築後、周溝を掘り墳丘を盛ったと考えられているため、埋葬の順序が逆転している。

重複　J9 号墳周溝を切り、J6 号墳に切られていると前回報告している。今回は J6 号墳側の掘削を行わなかったので、前回の断面観察を踏襲し J6 号墳に先行すると考える。J9 号墳とは近接して周溝が掘られており、切りあいについては確認できなかったが、周溝を交差せずに、古墳の存在を意識して作られた様子がみられるため、近い時期の構築と推定される。

出土遺物　これまでに、明らかな副葬品は出土しておらず、外表に供えられた供献品として、須恵器の大甕・長頸瓶、土師器坏、耳皿、砥石が出土している。また、主体部覆土から釘が出土している。このうち須恵器大甕は、小片に打ち砕かれ、墳丘から周溝にかけ散布されていた。

本調査では、須恵器・土師器破片と砥石が出土した。一部は前述の大甕と接合したほか、同一個体の破片も出土した。それ以外のものを図示した。1 の須恵器長頸瓶口縁部は、形態及び胎土観察により、第 6 図の長頸瓶同様、五所川原産とみられるものである。しかし、頸のすぼまった部分の径が、今回出土したものが細く異なり、別個体である。4 ～ 6 の坏破片は、概ね、築造されたと推定される 9 世紀代のものと見られる一方、2 の球胴甕頸部付近破片と、3 の小型壺破片は明らかに時期が遡り、7 ～ 8 世紀代のものとみられ、周辺に当該期の遺構が存在する可能性がある。7 は、多方面から打撃が加えられ砕かれた砥石であり、割れた複数破片が接合したものである。土器をばらばらにする行為同様、打ち砕いて供えたものとみられる。前回調査出土の砥石破片とは接合はしなかったが、同一個体の可能性がある。

小結　前回調査時に、掘削できなかった部分を掘削し、墳形を明らかにできた。既往の出土遺物に接合する破片等は数点あったが、復元には至らなかった。


X67929.312
Y45951.118
Z39.513
38.500m
38.000m
37.500m
38.000m
38.673
J10号墳
38.000m
37.500m
38.500m
37.000m
37.500m
37.000m
38.000m
37.500m
37.000m
36.500m
J9号墳
37.500m
X67915.153
Y45946.229
Z38.245
A 38.800m
A'
B 38.800m
B'
0
5m

第3図　J10号墳

十三森（2）遺跡 10 号墳 A-A' 南

層位	土壌の色・色調	土質	混入物・その他
第 1 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	パミス含む 含む しまりあり
第 2 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	パミス微量含む ローム粒微量含む しまりあり
第 3 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	パミス含む ローム粒少量含む しまりあり
第 4 層	黒褐色土 10YR2/3	シルト	10YR5/3 の火山灰（To-a）含む しまりあり
第 5 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	砂粒含む しまりあり
第 6 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR4/4 の火山灰（B-Tm）含む しまりあり
第 7 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	φ 5 ～ 10mm のパミス少量含む しまりあり
第 8 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒中量含む パミス含む しまりあり
第 9 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	φ 10mm のパミス含む しまりあり
第 10 層	にぶい黄褐色土 10YR5/4	粘土	黒色土混入 しまりあり
第 11 層	明黄褐色土 10YR6/6	粘土	黒色土混入 パミス含む しまりあり

十三森（2）遺跡 10 号墳 A-A' 北

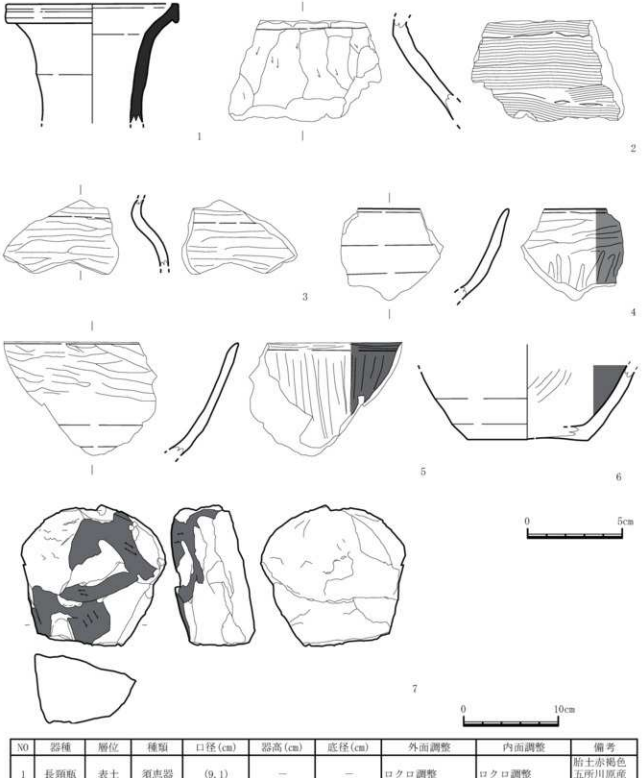
層位	土壌色・色調	土質	混入物・その他
第 1 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	パミス含む しまりあり
第 2 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	砂粒含む しまりあり
第 3 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR4/4 の火山灰（B-Tm）含む しまりあり
第 4 層	3 層対応		
第 5 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR5/3 の火山灰（To-a）含む しまりあり
第 6 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	砂粒含む しまりあり
第 7 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒少量含む しまりあり
第 8 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒多量混入 しまりあり
第 9 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	ローム粒含む しまり弱
第 10 層	黄褐色土 10YR5/6	粘土	しまり強
第 11 層	褐色土 10YR4/4	粘土	黒色土混入 パミス含む しまりあり

十三森（2）遺跡 10 号墳 B-B' 西

層位	土壌色・色調	土質	混入物・その他
第 1 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	パミス含む しまりあり
第 2 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	上層より暗い しまりあり
第 3 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒含む パミス含む しまりあり
第 4 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR4/6 の火山灰（B-Tm）含む しまりあり
第 5 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR4/2 の火山灰（To-a）含む しまりあり
第 6 層	黒褐色土 10YR2/3	シルト	砂粒含む しまりあり
第 7 層	黒色土 10YR2/1	シルト	パミス含む 砂粒含む しまりあり
第 8 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	粘土混入 しまり弱
第 9 層	黄褐色土 10YR5/6	粘土	黒色土混入 しまりあり
第 10 層	明黄褐色土 10YR6/6	粘土	黒色土混入 しまりあり

十三森（2）遺跡 10 号墳 B-B' 東

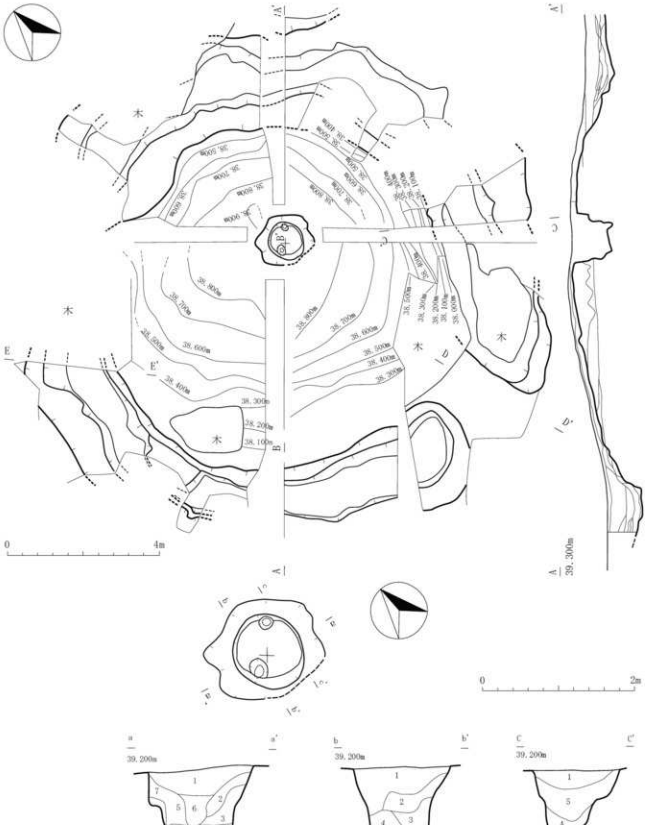
層位	土壌色・色調	土質	混入物・その他
第 1 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	砂粒含む しまりあり
第 2 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	パミス含む しまりあり
第 3 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	パミス・岩片微量含む しまりあり
第 4 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR3/4 の火山灰（B-Tm）含む しまりあり
第 5 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	10YR5/3 の火山灰（To-a）含む しまりあり
第 6 層	黒褐色土 10YR2/3	シルト	パミス含む ローム粒含む しまりあり
第 7 層	明黄褐色土 10YR6/8	粘土	ロームブロック
第 8 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	パミス含む ローム粒含む しまりあり
第 9 層	黒褐色土 10YR2/3	シルト	パミス含む ローム粒含む しまりあり
第 10 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	パミス含む しまりあり
第 11 層	黒褐色土 10YR2/2	シルト	ローム粒含む しまりあり
第 12 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	φ 2mm のパミス含む ローム粒混入 しまりあり
第 13 層	黒色土 10YR1.7/1	シルト	φ 16 ～ 20mm のパミス含む 墳丘



NO	器種	層位	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	備考
1	長頸瓶	表土	須恵器	(9.1)	—	—	ロクロ調整	ロクロ調整	胎土赤褐色五所川原産と思われる
2	球胴甕	1層	土師器	—	—	—	ケズリ	ナデ	P4
3	小型壺	覆土	土師器	—	—	—	ミガキ	ミガキ	PX
4	坏	床	土師器	—	—	—	ロクロ調整	ミガキ→黒色処理	P8
5	坏	覆土	土師器	—	—	—	ロクロ調整→口唇部辺ミガキ	ミガキ→黒色処理	PX
6	坏	覆土	土師器	—	—	(6.5)	ロクロ調整	ミガキ→黒色処理	PX

NO	器種	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石質	備考
7	砥石	周溝下層	14.8	15.4	7.2	2,060	凝灰岩	接合

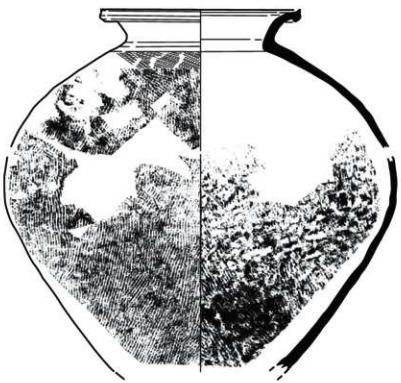
第４図　出土遺物

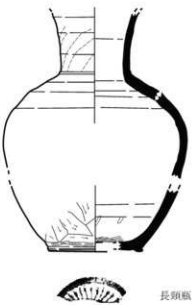


J10号墳　99土坑注記

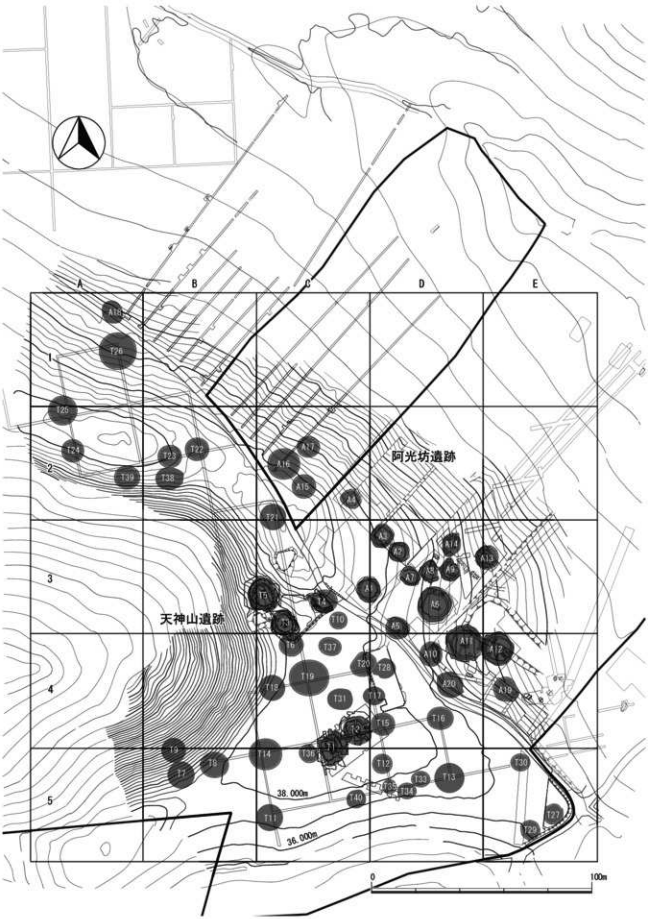
層位	土壌色・色調		土質	混入物・その他
第1層	黒褐色土	10YR2/3	シルト	直径1～30mmのパミス多量 ローム粒多量　褐色土(10YR4/6)少量
第2層	褐色土	10YR4/6	シルト	直径1～5mmのパミス多量 ローム粒多量 しまり弱
第3層	黒褐色土	10YR2/3	シルト	長径1～5mmのパミス多量 黒色土(10YR1.7/1)多量
第4層	黒色土	10YR1.7/1	シルト	直径1～5mmのパミス少量 しまりやや弱い
第5層	褐褐色土	10YR3/3	シルト	直径1～20mmのパミス多量
第6層	褐褐色土	10YR3/4	シルト	直径1～5mmのパミス少量 ローム粒少量 しまり弱
第7層	黒褐色土	10YR2/3	シルト	直径1～5cmの明黄褐色土(10YR6/8)少量 ローム粒少量 直径1～5mmのパミス少量
第8層	黒色土	10YR1.7/1	シルト	直径5cmの明黄褐色土(10YR6/8)ブロック しまり強

第５図　平成12年度調査図

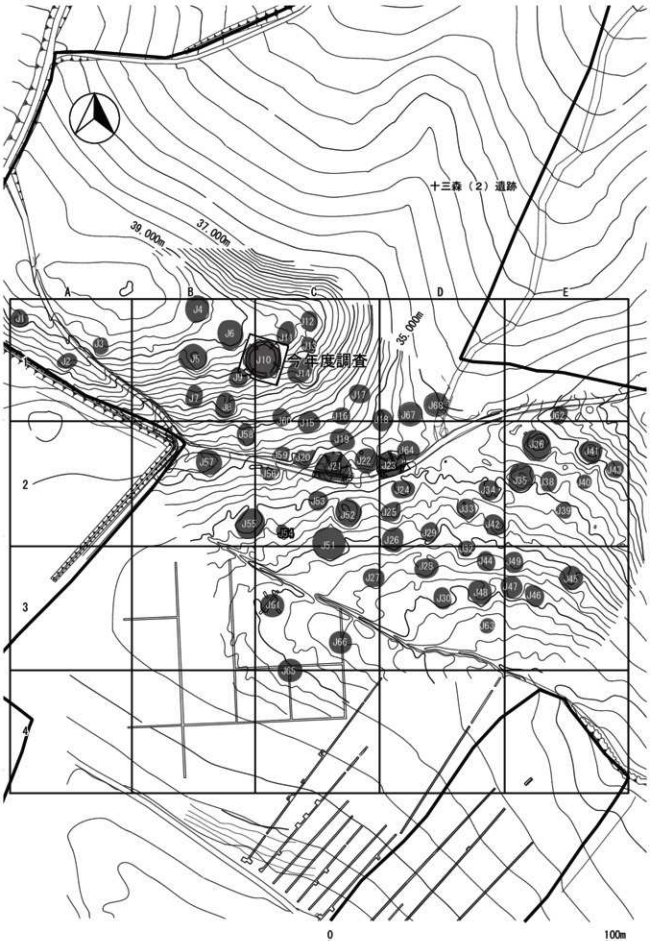




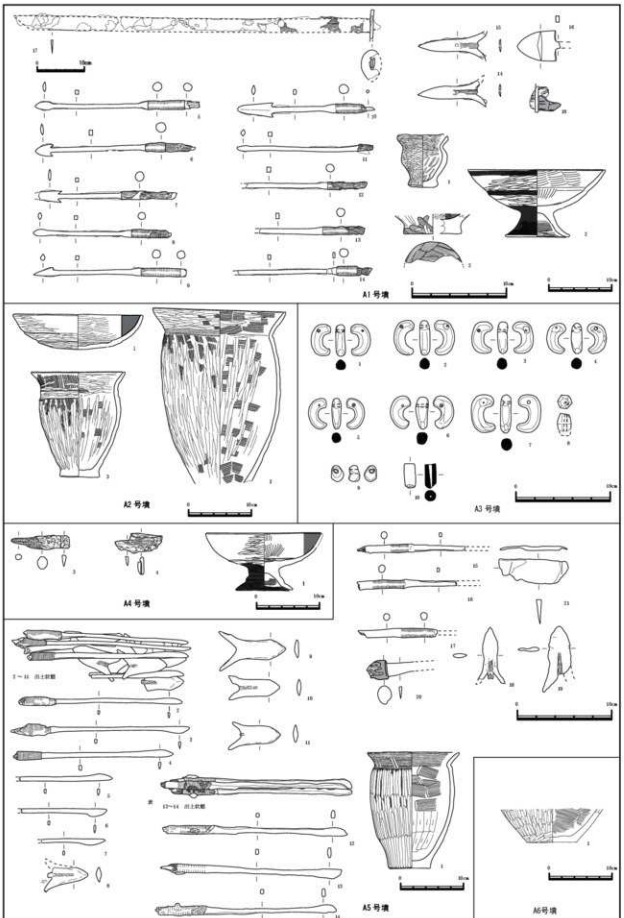
第６図　既往の出土遺物



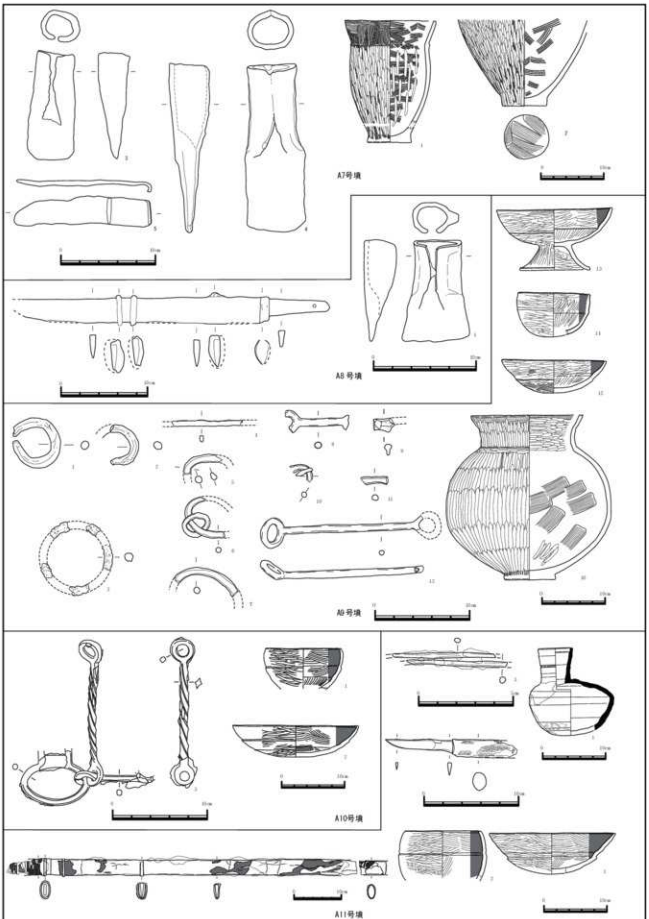
第７図　南側古墳配置図



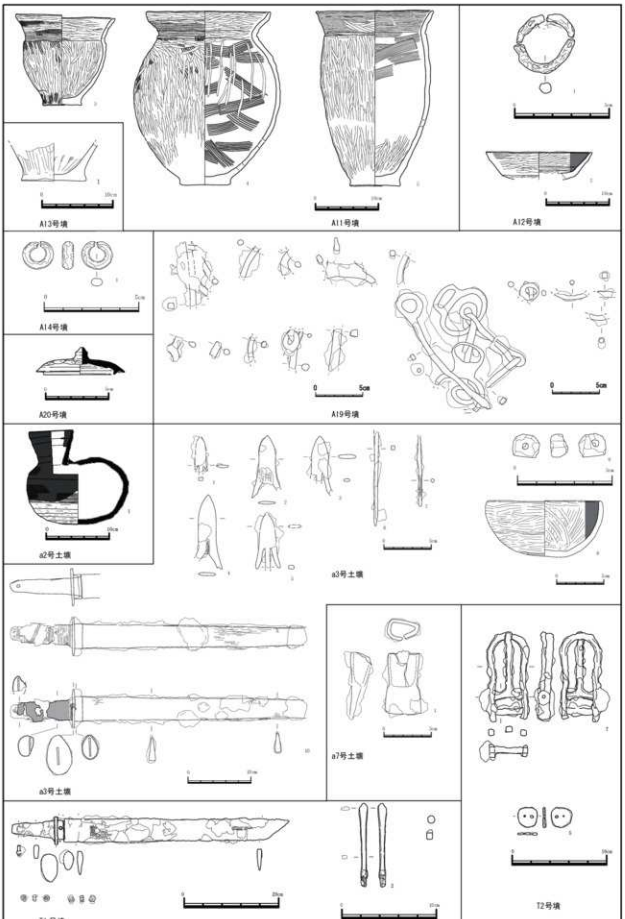
第 8 図　北側古墳配置図



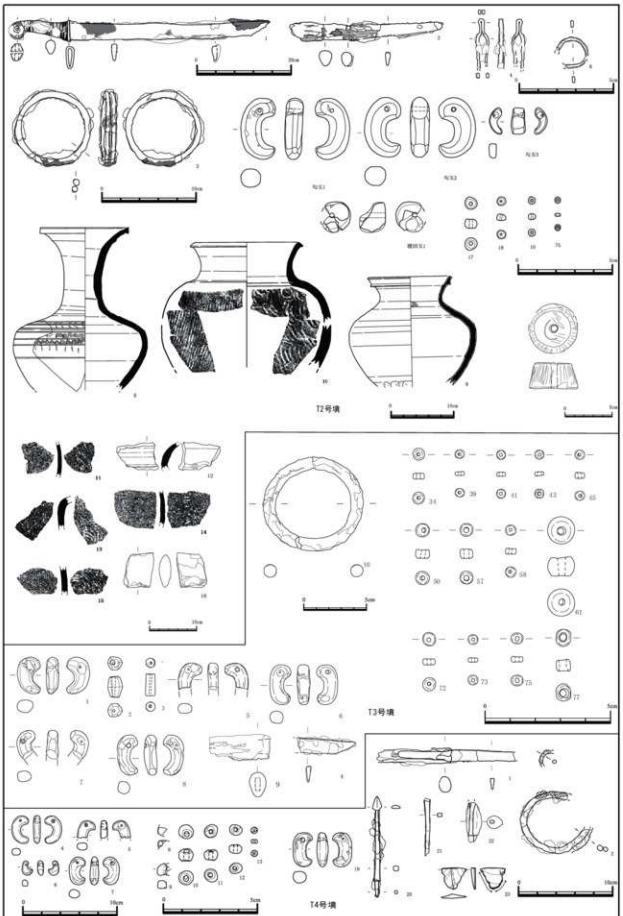
第９図　出土遺物①



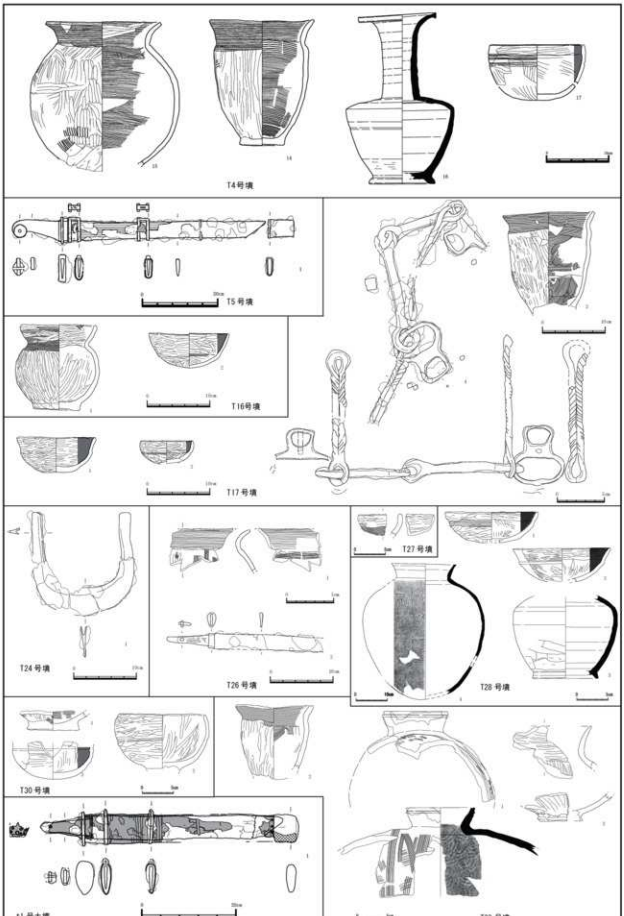
第 10 図　出土遺物②


A13号墳
A11号墳
A12号墳
A14号墳
A20号墳
A19号墳
a2号土壙
a3号土壙
a7号土壙
a3号土壙
T1号墳
T2号墳

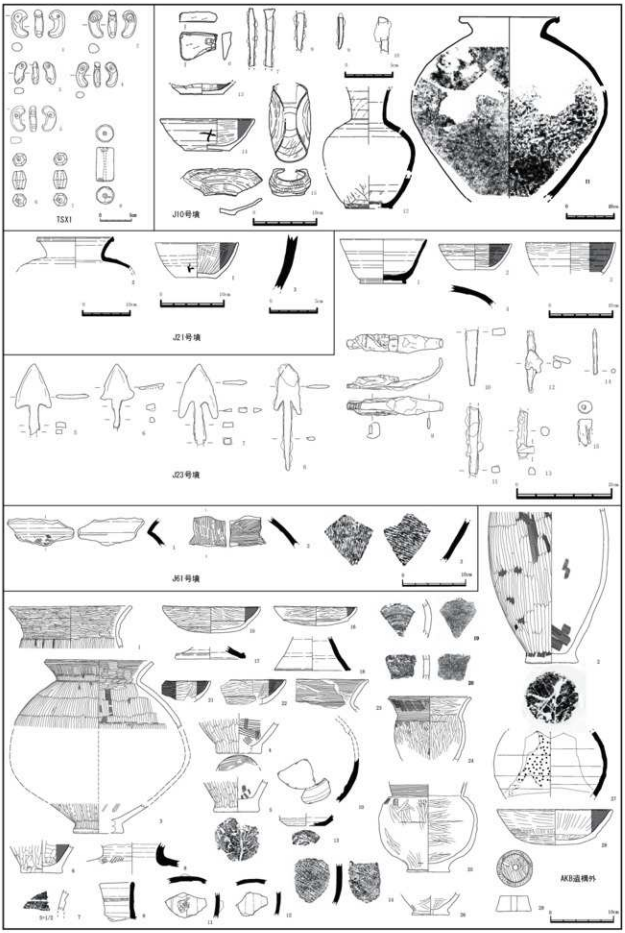
第 11 図　出土遺物③



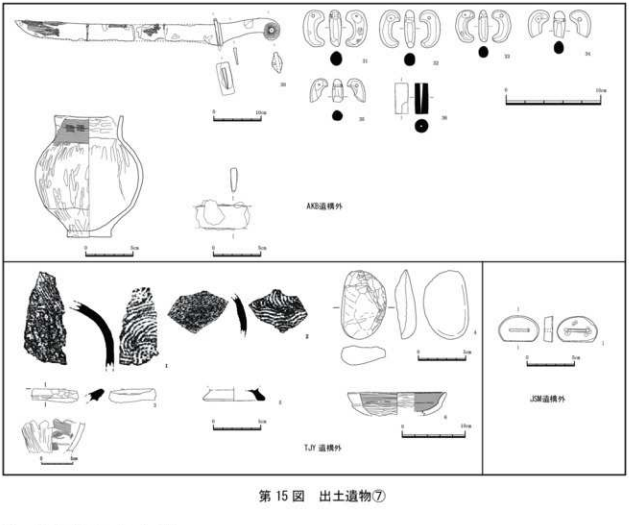
第 12 図　出土遺物④


T4号墳
T5号墳
T16号墳
T17号墳
T24号墳
T26号墳
T27号墳
T28号墳
T30号墳
t1号土壙
T33号墳

第 13 図　出土遺物⑤



第 14 図　出土遺物⑥



第 15 図　出土遺物⑦

5　調査のまとめ

平成 22 年度より開始した整備に係る発掘調査は今年度で終了となる。当面の最終調査となるため、4 次の調査を概観する。

阿光坊遺跡では、未調査地点に A19・20 号墳を確認した。北側の十三森（2）遺跡では墳丘が認識できる以外に、墳丘がみられない 67･68 号墳が確認され、平成 12 年度調査で確認されている J64 号墳例からも、さらに多くの古墳が存在することは確実である。

4 次の調査によって、新たに確認された末期古墳は、南側（第 7 図）で A19･A20、T27 ～ T40 の 15 基[注1] と、北側（第 8 図）で J67･J68 の合計 17 基である。既往の調査で確認されていた 108 基と合わせ 125 基となった。[注2] 南側の天神山遺跡で平成 22 年度に実施した電気探査により、さらに 18 基の未発見古墳が存在する可能性があるとされた。実際に先に挙げたように、トレンチ調査によって高い密度で古墳が分布していることが確認された。面的な調査がなされている阿光坊遺跡の遺構密度で分布していると仮定すれば、200 基程の群集墳と推定される。本発掘調査によって全容が明らかな古墳は 21 基であり、100 基以上が保存されている。

出土遺物は、トレンチ調査の上面確認であるため、多くの出土を見なかったが、これまで出土していなかった須恵器横瓶や、時期が限定される蓋坏の蓋など、多くの古墳とともに、良好な状態でこれらの遺物も保存されていることが改めて確認された。

今年度の調査では J10 号墳周溝出土遺物に古墳築造の時期と考えられる 9 世紀末葉より明らかに古い遺物が含まれており、周辺に 9 世紀以前の古墳が存在する可能性がある。

中野平遺跡をはじめ、周辺には 7 世紀から 9 世紀に営まれた集落跡が存在し、8 世紀代の住居跡も調

	主体部								周溝（m）				遺物		位置
	埋葬部（m）							最大値を計測					副葬品	供献品	
	長さ	幅	深さ	形態	主軸方向			外径	内径	幅	深さ	形態			
A1	2.30	0.80	0.58	長方形	N	51	W	7.80	5.40	1.50	0.48	円	刀■	○	第7図C3
A2	1.78	0.82	0.60	長方形	N	57	W	6.60	4.56	1.20	0.20	円	○	○	第7図D3
A3	—	—	—	—	N	—	W	7.70	5.10	1.70	0.25	円	●		第7図D3
A4	1.76	0.76	0.40	長方形	N	73	W	6.60	5.00	0.90	0.20	（円）	■	○	第7図C2
A5	2.70	1.80	0.40	長方形	N	63	W	7.80	5.90	1.30	0.21	（円）	■	○	第7図D3
A6	2.30	1.30	0.60	長方形	N	62	W	12.10	7.50	2.60	0.60	円	●	○●	第7図D3
A7	2.00	1.10	0.24	長方形	N	48	W	6.90	4.67	1.00	0.35	馬蹄	■	○	第7図D3
A8	2.30	1.10	0.48	長方形	N	51	W	7.80	4.82	2.20	0.10	弧	刀■	■	第7図D3
A9a	1.90	1.00	0.48	長方形	N	59	W	7.40	4.40	1.20	0.37	馬蹄	●		第7図D3
A9b	2.10	1.00	0.65	長方形	N	68	W	—	—	—	—	—	●	○■	第7図D3
A10	—	—	—	—		—		(6.90)	5.50	1.90	0.18	(馬蹄)		○■	第7図D4
A11	2.55	1.80	0.50	長方形	N	65	W	12.60	8.50	2.60	0.50	円	刀■	○△	第7図D3
A12	1.70	1.50	0.20	長方形	N	68	W	11.20	7.70	2.20	0.59	円	●	○	第7図E4
A13	—	1.25	0.28	不明	N	57	W	7.70	4.08	1.75	0.37	弧		○	第7図D3
A14	2.30	0.90	0.21	長方形	N	46	W	—	5.80	1.50	0.27	弧	●		第7図D3
A15	—	—	—	—		—		8.00							第7図C2
A16	—	—	—	—		—		5.60	4.70	1.20	0.55	—			第7図C2
A17	—	—	—	—		—									第7図C2
A18	—	—	—	—		—									第7図A1
A19	—	—	—	—	N	72	W	8.84	6.70	1.44	—			■	第7図E4
A20	—	—	—	—		—		(11.00)	(8.60)	1.50				△	第7図D4
a1	1.90	0.90	0.38	隅丸長方形	N	46	W	—	—	—	—	—			第7図D3
a2	1.60	0.95	0.38	不正長方形	N	68	W	—	—	—	—	—		△	第7図D4
a3	1.85	1.10	0.30	不整長方形	N	52	W	—	—	—	—	—	刀○●■		第7図E4
a4	1.55	0.80	0.27	長楕円形	N	14	W	—	—	—	—	—			第7図E4
a5	1.46	0.83	0.19	長楕円形	N	59	W	—	—	—	—	—			第7図E4
a6	2.37	1.38	0.55	長方形	N	71	W	—	—	—	—	—			第7図E4
a7	1.55	0.90	0.32	長楕円形	N	44	W	—	—	—	—	—	■		第7図E4
T1	2.23	1.65	0.80	長方形	N	31	W	10.00	6.65	1.89	0.79	円	刀■		第7図C4
T2	2.38	1.26	1.20	長方形	N	36	W	9.42	6.50	1.76	0.94	円	刀■●	○△■	第7図C4
T3	2.56	1.45	0.56	長方形	N	50	W	7.90	5.40	1.40	0.40	弧	■●		第7図C3
T4	2.45	1.10	0.80	長方形	N	28	W	(6.70)	(4.50)	2.40	0.60	円？	■●	○△	第7図C3
T5	2.85	1.15	0.50	長方形	N	6	W	10.26	7.28	2.14	0.54	円		刀	第7図B3
T6	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図C4
T7	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図B5
T8	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図B5
T9	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図B4
T10	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図C3
T11	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図C5
T12	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図D5
T13	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図D5
T14	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図B4
T15	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図D4
T16	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—		○	第7図D4
T17	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—		○■	第7図C4
T18	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図C4
T19	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図C4
T20	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図C4
T21	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図C2
T22	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図B2
T23	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図B2
T24	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—		■	第7図A2
T25	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—			第7図A1
T26	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—	刀	○	第7図A1
T27	—	0.68	—	長方形？	N	120	W	6.30	3.70	1.88	—	—		○	第7図E5
T28	—	—	—	—		—		6.50	4.82	1.98	—	—		○△	第7図D4
T29	—	—	—	—		—		(8.55)	—	2.00	—	—			第7図E5
T30	—	—	—	—		—								○	第7図E5
T31	—	—	—	—		—		(8.00)	(4.00)	1.34					第7図C4
T32	—	—	—	—		—									欠番
T33	—	—	—	—		—		(7.10)	(5.40)	1.16	—	—		○△	第7図D5
T34	—	—	—	—		—									第7図D5
T35	—	—	—	—		—		3.90	2.90	0.75	—	—			第7図D5
T36	—	—	—	—		—		(10.50)	(8.60)	0.99	—	—			第7図C4
T37	—	—	—	—		—		(7.40)	(6.40)	1.07	—	—			第7図C4
T38	—	—	—	—		—		9.30	7.30	1.13	—	—			第7図B2
T39	—	—	—	—		—		(6.40)	(4.00)	1.30	—	—			第7図A2
T40	—	—	—	—		—		(7.40)	(6.00)	0.83	—	—			第7図C5
t1	1.30	0.64	0.31	長方形	N	33	W	—	—	—	—	—	刀		第7図C3

土師器	○
須恵器	△
鉄器	■
装飾	●

	主体部					周溝（m）					遺物		位置
	埋葬部（m）					最大値を計測					副葬品	供献品	
	長さ	幅	深さ	形態	主軸方向	外径	内径	幅	深さ	形態			
	主体部					周溝（m）					遺物		位置
	埋葬部（m）					最大値を計測					副葬品	供献品	
	長さ	幅	深さ	形態	主軸方向	外径	内径	幅	深さ	形態			
J1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号A1
J2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号A1
J3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号A1
J4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号B1
J5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号B1
J6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号B1
J7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号B1
J8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号B1
J9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号B1
J10	1.50	1.35	0.93	円形	—	13.35	10.05	2.60	0.95	馬蹄	■	○△	第8号B1
J11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C1
J12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C1
J13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C1
J14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C1
J15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C1
J16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C1
J17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C1
J18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C1
J19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C2
J20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C2
J21	2.70	0.83	0.30	長方形	N　32　W	12.70	8.50	1.00	0.85	馬蹄		○△	第8号C2
J22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C2
J23	—	—	—	—	—	10.00	7.10	2.25	0.80	円？		○△■	第8号D2
J24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D2
J25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D2
J26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D2
J27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C3
J28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D3
J29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D2
J30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D3
J31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			欠番
J32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D2
J33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D2
J34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D2
J35	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E2
J36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D2
J37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			欠番
J38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E2
J39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E2
J40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E2
J41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E2
J42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D2
J43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E2
J44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D3
J45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E3
J46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E3
J47	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D3
J48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D3
J49	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E3
J50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			欠番
J51	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C2
J52	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C2
J53	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C2
J54	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C2
J55	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号B2
J56	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C2
J57	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号B2
J58	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号B2
J59	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C2
J60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E1
J61	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C3
J62	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号E1
J63	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号D3
J64	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		○△	第8号D2
J65	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C3
J66	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			第8号C3
J67	—	—	—	—	—	(11.00)	(8.50)	1.15	—	—			第8号D1
J68	—	—	—	—	—		(5.00)	1.97	—	—			第8号D1

土師器	○
須恵器	△
鉄器	■
装飾	●

査されているが、古墳群で当該期と考えられる古墳は少なく、調査地域の偏りに起因すると考えているが、掘削を伴う調査でなければ確認できず、将来所属時期の確認は必要になると思われる。

J10 号墳の調査成果については、墳丘の構築方法の確認ができたことと、主体部の検出ができたことが大きな成果である。墳丘をもつ末期古墳の調査はこれまでに、三沢市平畑（3）遺跡、平畑（5）遺跡、青森市三内丸山遺跡で報告があるが、主体部は、平畑（3）遺跡は大きく撹乱を受け確認されず、平畑（5）遺跡では、精査したにもかかわらず見つかっていないため、掘削せず、地表面に置き、盛り土をしたという推測をしている。三内丸山遺跡では、落ち込みを確認したが、掘削調査はしていない。

J10 号墳例は数少ない 9 世紀代の末期古墳で主体部を調査した例である。[註3] 円形土壙となり、それまでの伸展葬から、屈葬、もしくは再葬に変化しており、一般化できるものか類例を待たなければならないが、少なくとも同様の主体部の場合、当時の地表面からの掘削が 50cm であり、黒色腐植土層（基本層序Ⅰ からⅡ層）に留まっており、すでに墳丘が削平されてしまっている場合、周溝のみが検出されることとなる。周溝のみ検出される例、いわゆる円形周溝と呼ばれるものが末期古墳であった可能性が極めて高いという傍証となる。

未解明な部分も多く残っているが、当面の調査を終え、史跡公園として整備し、保存する。今後史跡現地や展示施設を利用いただき、ご指導・ご助言くださるようお願い申し上げ、報告を終えたい。

註 1　T32 号墳が平成 22 年度調査で確認されたが、平成 23 年度再調査したところ古墳以外の遺構であったため欠番になっている。
註 2　平成 24 年度の発掘調査報告書では 124 基としたが、125 基に訂正する。土坑が 8 基確認されており、副葬品の出土から埋葬施設ととらえられるものが 5 基含まれるが、古墳の数には入れていない。
註 3　平成 26 年度に青森県埋蔵文化財調査センターが調査した、東北町東道ノ上（3）遺跡で 9 世紀代末期古墳の調査がなされ、長方形の主体部が検出された。詳細は報告書を待つほかないが、本例とは大きく異なる。

《引用参考文献》

三沢市教育委員会　1992『平畑（5）遺跡Ⅱ』三沢市埋蔵文化財調査報告書第 9 集
三沢市教育委員会　1996『平畑（3）遺跡』三沢市埋蔵文化財調査報告書第 14 週
青森市教育委員会　1994『三内丸山（2）・小三内遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 23 集
青森県教育委員会　2012 『三内丸山遺跡 XX』青森県埋蔵文化財調査報告書第 338 集
おいらせ町教育委員会　2007 『阿光坊古墳群発掘調査報告書』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第 1 集
おいらせ町教育委員会　2011 『阿光坊古墳群Ⅰ－整備に係る発掘調査報告書－』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第 11 集
おいらせ町教育委員会　2012 『阿光坊古墳群Ⅱ－整備に係る発掘調査報告書－』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第 14 集
おいらせ町教育委員会　2013 『阿光坊古墳群Ⅲ－整備に係る発掘調査報告書－』おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第 16 集

調査終了状況

調査前南から

調査前北から

作業状況

埋土除去完了

図版1　J10号墳の調査1

セクションA南

セクションA北

セクションB西

セクションB東

セクションA南掘削状況

セクションA北掘削状況

セクションB西掘削状況

セクションB東掘削状況

図版2　J10号墳の調査2

完了状況南から

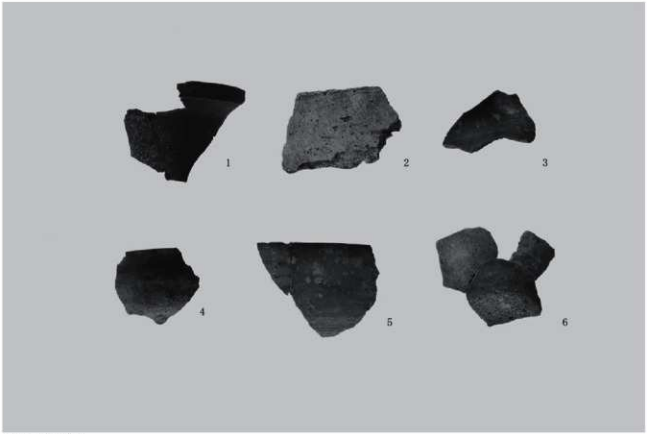
完了状況北から

完了状況東から

砥石出土状況

砥石

図版3　J10号墳の調査3・出土遺物1



今年度出土土器

過年度出土遺物

図版 4　出土遺物 2

報　告　書　抄　録

ふりがな	あこうぼうこふんぐんよん
書　名	阿光坊古墳群Ⅳ
副書名	整備に係る発掘調査報告書
シリーズ名	おいらせ町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第20集
編著者名	小谷地 肇　木村 誠
編集機関	青森県おいらせ町教育委員会
所在地	青森県上北郡おいらせ町上明堂60-6
発行年月日	西暦2015年3月27日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
十三森(2)遺跡 (じゅうさんもりいせき)	おいらせ町(ちょう)阿光坊(あこうぼう) 105-58外(ほか)	2412	4120	40度 36分 25秒	141度 22分 52秒	20140527 ～ 20140613	225㎡	学術調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
十三森(2)遺跡 (じゅうさんもりいせき)	墳墓	平安	末期古墳 1	砥石	

要約	阿光坊古墳群内の十三森（2）遺跡10号墳を強調表示工事準備のための再発掘調査を行った。平成12年度調査後の埋め戻し土の除去と、当時立木があったため未掘削であった部分の調査を行った。掘削後、土層観察用の畦を、古墳築造より新しい古代の降下火山灰To-aより上層を除去した。

おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第 20 集

阿光坊古墳群Ⅳ－整備に係る発掘調査報告書－

発　　行　平成 27 年 3 月 27 日

編集・発行　おいらせ町教育委員会
〒 039-2289　青森県上北郡おいらせ町上明堂 60-6
TEL　0178-56-4276

印　　刷　社会福祉法人　青森県コロニー協会
青森コロニー印刷
〒 030-0943　青森県青森市幸畑松元 62-3
TEL　017-738-2021